在校生・保護者アンケートにおける他アンケートとの比較検証

“在校生”、“保護者”、“高等学校教員”、“受験者”、“オープンキャンパスに参加した高校生”に対して、本校に入学した経緯や進学情報についてアンケート調査を行い、分析結果を以下に示す。

（１）「本校を知るきっかけの傾向」に関する回答

各アンケート対象者（高等学校教員は除く）において同様な傾向を示す。

①「学校の先生から聞いて」②「お子様、家族、親類などから聞いて」③「本校のホームページを見て」の項目が特に多い

（２）「パンフレットやインターネットなどの使用頻度」に関する回答

“受験者”および“オープンキャンパスに参加した高校生”のアンケートでは、①「大学等が発行するパンフレット」②大学等開設 HP（スマホ）③大学等開催 HP（PC）④「進学情報サイト（スマホ）」の順で使用頻度が多い。“高等学校教員”からも同様な結果となる。

しかし、”在校生”、“保護者”に対する結果では、逆に「本校が作ったパンフレット」および「大学等開設 HP」の使用頻度は低い結果となる。

（３）「本校の受験を決めた時期」に関する回答

“在校生”、”保護者”、“受験者”からは同様な傾向が見られる。「入学の１年以上前」、「最近１ヶ月以内」の項目は、それぞれ 10%程度を占めている。

（４）「本校の受験を決めた最も重要なポイント」に関する回答

各アンケート対象者において同様な傾向を示す。「授業料が安い」「就職の実績が高い」「専門分野を深く学べる」の項目が高い。更に“高等学校教員”からは、「学生の面倒見が良い」「学習施設や環境が整っている」が挙げられた。

（５）「最終的に受験を決めたのは、誰のアドバイスが一番のポイント」に関する回答

“受験者”では、「自分から進んで受験したいと思った」の項目が半数を占めていた。次に多かったのは、「学校の先生のアドバイス」「両親や家族、親類のアドバイス」であり、“在校生”と“保護者”では、この身近な人の影響力が半数以上を占めていた。

（６）その他

前述（１）～（５）のアンケート結果以外に、“高等学校教員に向けたアンケート”から募集に関する内容を次に挙げる。

・「貴校の本教員の方々に、本校がどの程度知られているか」に関する回答では、６割の教員が「知っている」である。

・「本校に関する情報提供を行う機会を例年設けているか」に関する回答では、８割が「なし」である。

・「本校の募集関係の印刷物の活用状況」に関する回答では、「必要に応じて参照する」項目を含めると、ほぼ 100%となる。また、自由意見としては、「教員向けには良い」とする意見があった。

・「本校のホームページに関する進路指導を行う視点からのご意見」に関する回答では、「字が多く」、「素朴」などの意見があった。

・「本校の資源を活かした連携や支援を今後希望しますか」および「職員同士の新たな連携・交流の機会を希望しますか」に関する回答では、８割近い教員が「希望しない」である。これは、教員の長時間労働による余裕時間のなさが影響しているのではないかと思われる。

以上のように “在校生”、“保護者”、“高等学校教員”、“受験者”、“オープンキャンパスに参加した高校生”を整理した結果、これらの対象者の回答傾向は同様であると判断できる。よって“募集に関する方向性”は【別紙ＰＪ１－６】「在校生・保護者アンケート集計結果の分析」のとおりとなる。